

## 2014（平成26）年度 後期（1級第4回）キャリア・コンサルティング技能検定

## 学科試験問題と『キャリアの青本Ⅱ』の該当ページ 一覧

問題	範囲・内容	該当ページ
1	1-①平成25年能力開発基本調査	92頁以下
2	1-①キャリア・コンサルティングの役割と意義	20頁以下
3	1-②キャリア・コンサルティングの役割	20頁以下
4	1-③キャリア・コンサルタントの倫理（多重関係）（*）	27頁以下（*）
5	1-③キャリア・コンサルタントの活動範囲と義務	25頁以下
6	2-①キャリアの理論	ハンセン38頁、ハーズバーグ55頁、スープー35頁以下、ホランド30頁以下、サビカス39頁
7	2-①クランボルツの理論	48頁以下
8	2-①ギンズバーグの理論	36頁
9	2-②カウンセリングの理論	来談者中心療法57頁以下、精神分析的カウンセリング58頁以下、認知療法61頁以下、行動療法61頁以下、交流分析63頁
10	2-②認知行動療法	61頁以下
11	2-②ロジャーズの理論	57頁以下
12	2-②心理テスト ロールシャッハテスト（*） 内田クレペリン検査（*）	YG性格検査74頁以下、GATB74頁、VRT72頁以下、ロールシャッハテスト302頁（*）、内田クレペリン検査302頁（*）
13	2-③厚生労働省編一般職業適性検査（GATB）	74頁
14	2-④職業情報の提供	80頁以下、しごと情報ネット85頁、ハローワークインターネットサービス84頁
15	2-④職業情報・職業分類	80頁
16	2-⑤OJT	98頁以下
17	2-⑤公共職業訓練（*）	95頁以下（*）
18	2-⑥ダイバーシティ・マネジメント	ポジティブ・アクション184頁、障害者の雇用165頁以下、ワークライフバランス122頁以下、外国人の雇用168頁以下、高齢者の雇用162頁以下
19	2-⑥人事管理	117頁以下
20	2-⑥解雇の予告	177頁
21	2-⑦若者の雇用、労働市場	若者の雇用155頁以下、新規学卒者の就職152頁以下、新規学卒者の早期離職258頁以下

22	2-⑦労働市場	女性の就業 266 頁以下、非正規雇用 149 頁、有効求人倍率 151 頁以下、労働力調査 147 頁、外国人の雇用 168 頁以下
23	2-⑧労働関連法規	労働契約法 177 頁以下、障害者雇用促進法 186 頁、高年齢者雇用安定法 183 頁、男女雇用機会均等法 184 頁、育児介護休業法 185 頁
24	2-⑨社会保障関連法規	健康保険 197 頁以下、安衛法 179 頁以下、雇用保険 194 頁以下、生活保護 198 頁以下
25	2-⑩キャリア教育	213 頁以下
26	2-⑪精神疾患	241 頁以下
27	2-⑫平成 25 年度の精神障害に関する労災補償 (*)	(*)
28	2-⑬労働者の心の健康の保持増進のための指針	230 頁以下
29	2-⑭スーパーのキャリア発達段階	35 頁以下
30	2-⑮アイデンティティ (マーシャの理論)	43 頁
31	2-⑯転機 (ブリッジス)	43 頁
32	2-⑰発達障害への支援	278 頁以下
33	3-①動機づけ面接法	283 頁以下
34	3-②自己管理	295 頁以下
35	3-③職業適性	302 頁、72 頁、74 頁
36	3-④自己理解	72 頁、300 頁以下
37	4-①教育・普及活動	311 頁以下、218 頁以下
38	4-②環境への働きかけ	311 頁以下
39	4-③ネットワークの認識と実践	314 頁以下、20 頁以下
40	4-④環境への働きかけ	314 頁以下
41	4-⑤ネットワークの認識と実践	318 頁以下
42	4-⑥自己研鑽	324 頁以下
43	4-⑦キャリア形成支援者としての姿勢	294 頁以下、20 頁以下、25 頁以下、321 頁
44	5 グループダイナミクス	67 頁、292 頁
45	5 構成的 GE におけるリーダーのインストラクション	67 頁、293 頁以下
46	6 教育指導 (*)	(*)
47	6 ワークショップ (*)	(*)
48	7 スーパービジョン	327 頁以下
49	7 グループスーパービジョン	329 頁
50	7 スーパービジョン	327 頁以下

表中の (\*) については、今後、当会で分析する予定

## 【1級 第4回試験問題の分析】

### ◆難易度分析

今回、正答率が低いと予想される出題は、次のとおりである。

- ① これまで未出題であった内容の出題 → **問4、問27、問34**
- ② 細かい知識・数字を問う出題 → **問1問8、問10、問11**
- ③ 言葉の意味・内容を問う出題 → **問16**

- ・それ以外の問題は、これまでと変わらない難易度であった。
- ・日本語の語感で正解を導き出すことのできる問題もいくつかみられる。
- ・必ず得点できる（得点しなければならない）問題・分野で、きちんと得点を積み上げることができれば、合格ラインに到達できる。

### ◆傾向分析

- ・1級特有の詳細さ・数字の細かさは、これまでと同じ程度にあるが、基本として理解しておくべき知識については、**1級と2級で違いはない。**
- ・これまでと同様に、各分野で指導者として必要な「詳細な知識」を問う出題である。
- ・細かい知識や数字を問う出題や、日本語の語感で正解を導きだせる出題がこれまでよりも数多く見られる。

## 【今後の勉強へのアドバイス】

- |  |
|--|
| ①合格ライン（50問中35問：70点）を確実にクリアするために、「毎回のように出題される」分野の「頻出の基本的な内容」を確実に理解し、得点する。   |
| ②「レアな問題」や「細かい数字や些末な知識を問う問題」にとらわれるよりも、『キャリアの青本Ⅱ』を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を図るとともに、「キャリア・コンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な知識を中心に習得し、ここを得点源とする。                                |
| ③「過去問」とともに『キャリアの赤本』を活用し、必ず押さえておくべき「頻出分野」がどこか、出題のされ方がどうかなどを把握し、確実に得点できるようにしておく。   |
| ④科目・範囲ごとに、得点するために必要な知識の量、これまで出題された問題数、問題の難易度などを分析し、限られた時間を有効に使って合格するためには、どこを攻略するかの戦術を組み立てる。  |
| ⑤試験に慣れて、知識以外の「日本語の語感による正答（例：必要がない、かならず等の語彙は要注意）発見のテクニック」や時間配分の技術（5肢択一の問題50問を100分で解いて、見直す時間を確保する方法）、ケアレスミスをなくす方法を体得することで、得点の上積みを実現する（このテクニックを知るだけで、かなりの得点アップが見込める）。 |